

答申骨子（案）に対する指摘と対応（案）

○構成等に関する指摘

	指摘箇所	指摘内容	対応
1	レポート	レポートは、資料編ではなく、答申本編に入れたほうがよい	本編第2章を委員レポートとしました。
2	第1章 事例報告	事例の分類の仕方が適切でない。そもそも分類する必要がない	分類せず、 <u>発表順</u> に掲載することとしました。
3	第1章 事例報告	活動のスタートのきっかけを見る視点 は必要	活動のきっかけ、枠組みとして様々な形がある ことについて、リード文および事例報告で、可能 な範囲で触れました。
4	第1章 事例報告	事例紹介に、QRコードなどを入れて、 情報収集に役立つようにするとよい	事業HPがあるものは、URLを記載しました。

○内容に関する指摘

	指摘箇所	指摘内容	対応
1		障がい福祉という分野を入れて欲しい	
		→第1章社会の状況に、インクルーシブに関する認識を入れたほうがよい	「障がい者や高齢者、あるいは生活困窮世帯等、社会的に弱い立場にある人たちが孤立してしまうリスク…」について触れました。
		→「事例からの考察」に入れてはどうか 「理解性」「相互理解性」「共感性」など	基本的視点に、「多様性」（仮）を追加しました。
2		社会教育施設（図書館、博物館、美術館等）と学校との連携・協働にも触れたほうがよい	社会教育施設（主に公民館）については、本編で触れています。図書館、博物館、美術館についても、提言で触れました。
3		「社会参加」は「社会参画」とすべき	参加＝仲間になること、みんなと一緒に何かを すること 参画＝計画を立てるのに加わること 上記の意味を踏まえて、「参加」「参画」を使い 分けました。
4	第1章 事例報告	社会の状況の中で、「貧困」について触れる必要がある	事例報告のリード文に、子どもが抱える課題の一つとして“相対的貧困”を挙げました
5	第1章 事例報告	事例報告は、具体的に“こういうことができるよ”という書き方にして、提言につながるようにしたい	活動を紹介する欄は、活動に関わっている経験や取材した内容を踏まえて、具体的に執筆いただきました。
6	第1章 事例報告	事例報告で、活動している視点から見た、活動の勘どころや要になる部分に触れるとよい	

7	第3章2 事例にみられる効果	効果として、第3の居場所ができる、信頼できる大人が増える、地域で顔の見える関係が生まれているといった点があった。これを明記すべき。また、そのことはインクルーシブにもつながる	「子どもへの効果」に、「第3の居場所」づくりの項目を設けました。
8	第3章1 事例からの考察	“基本的原則”は、“基本的視点”といった表現のほうがよい	「基本的視点」としました。
9	第3章1 事例からの考察	第2章で突然「ボランティアのあり方の…」という表現が出てくるのが分かりにくい	構成が変更となっています。 事例報告及びレポートで、ボランティアの活動を含めた具体的な活動内容等触れた後、論点の整理となります。

○内容（提言）に関する指摘

	指摘箇所	指摘内容	対応
1	提言	「学校を核とした地域コミュニティづくりへの展開」という表現に違和感がある。これまでの議論と整合性がとれない。「学校と関わりをもった地域コミュニティづくり」「公民館等社会教育施設と学校の協働による地域づくりの展開」などの表現のほうがよい	「地域住民や団体」を育てていく必要性を大切な視点として提示しました。